

オーナーblog 第5話 「不利は“知恵”で乗り越える」 (2023.5.30.)

座位が困難になった高1生 A さん、保護者より学習指導の延期依頼あり。大人の対応で、「Yes、そうしましょう。」といえ、トラブル無き楽な選択となる。

本気で結果を出すとコミットしたからには、「絶対にダメ！」となる。理由は、高校3年間の時間が過ぎて、更なる学力負債が積み上ってしまうからだ。保護者の“常識”が、不利を高めていることを説明した。

私の外来には、80代の失明2名、強度弱視1名の患者さんが来ている。糖尿病を始めとして、複数の疾患を管理している。毎度、患者さんの不平不満、愚痴や失望の話を聞くことから始まる。皆さん共通して、「先生と話をしたら元気がもらえる。明日も生きる気持ちが湧いてくる。」と言われる。

私は何を話しているのか。とにかく傾聴している。そして、私の脳を貸し出している。私の経験や知識を、できるだけ相手の立場になって、智慧に変換している。それを、『言霊』として伝えるように努めている。

A さんも、机やペンが無くても寝たままで学習できる勉強法を一緒に考えればよい。目の見えない人でも、イメージをしながら記憶して暮らしている。